

令和3年度全国科学館連携協議会北海道ブロック会議

(兼第2回北海道青少年科学館連絡協議会館長会議) 概要報告

1 会議名

令和3年度全国科学館連携協議会北海道ブロック会議
(兼北海道青少年科学館連絡協議会 第2回館長会議)

2 実施形態

オンライン会議及び調査票や事業報告書などの資料交換

3 日程

令和3年11月30日(火) 10:30~12:00

4 参加者(五十音順)

(1) 出席

厚岸町海事記念館、小樽市総合博物館、帯広市児童会館、釧路市こども遊学館、札幌市青少年科学館、苫小牧市科学センター、北網圏北見文化センター、北海道立オホーツク流氷科学センター、余市宇宙記念館、稚内市青少年科学館
連携協事務局、

(2) 資料交換のみ参加

旭川市科学館、岩見沢郷土科学館、滝川市こども科学館、りくべつ宇宙地球科学館

5 会議内容

各館の上半期の事業報告書と調査票を事前に提出していただき、それをもとに情報交換を行った。主な話題は以下のとおり。

(1) 連携協総会・幹事会の報告について

北海道ブロック幹事(札幌市青少年科学館)より、総会・幹事会で協議された大規模災害時の相互連携などについて報告を行った。

(2) 令和3年度4月~9月の各館の運営状況について

多くの館で臨時休館や事業縮小を行い、コロナ以前と比べ来館者が減っている状態が続いていることが各館から報告された。実施した事業についても、定員の削減や検温などの感染症対策をとったことをお互いに紹介しあった。

小型のプラネタリウムを持つ館では投影機の位置をドーム中央からずらすことで客席間を広げ密を避ける工夫をしたことや、講座やイベントを事前申し込み制にした館では事前申し込み制にしたことで運営面が改善されたという報告があった。参加者を募って遠方の加盟館に行くバスツアー型の事業を行っている館では、市が所有する無料バスが使えなくなるなど予算的に厳しくなっていることが報告された。

多くの館より連携協の貸出展示物を使った企画展を開催されていた。

(3) 展示物・プラネタリウムのリニューアルについて

加盟館の多くは展示物やプラネタリウムが老朽化しているため、機器の更新に関する情報交換を行った。展示物を委託制作や買取ではなく複数年のリース契約にしている館や、地方創成臨時交付金などを使って展示物を入れ替えた館、通常は映像プログラムを

映しているドームシアターをプラネタリウムとしても活用できるようにした事例が紹介された。

連携協事務局よりリニューアルなどによる新しい展示物を導入した施設の事例を学べる連携協の研修会の案内や、過去の研修アーカイブス資料を連携協ホームページに掲載していることなどについて情報提供があった。会議終了後に改めてブロック幹事より、連携協事務局から提供いただいた情報をメーリングリストで周知し欠席館とも情報を共有した。

6 その他

北海道ブロックではオンライン環境が整っていない館があるため、昨年度の会議は書面開催としたが、全国的なオンライン化・デジタル化の動きを踏まえ、今年度はオンライン開催に変更することとした。環境が整わずオンライン会議に参加できない館についても調査票や事業報告書などの資料交換に参加してもらえるようにしたところ、北海道ブロック加盟館全 15 館のうちオンライン参加 10 館、資料交換のみ参加 4 館が参加した。次年度についても、コロナウイルスの感染状況をもとに、できるだけ多くの館が参加しやすいよう開催形式を検討することとしたい。